

令和6年度第4回地方独立行政法人機構評価委員会 議事要旨

日 時 令和7年2月4日(火) 16時00分から17時00分

場 所 加古川中央市民病院 3階 会議室

出席者 委 員 4名
加古川市民病院機構 11名
事務局 7名

会議次第 1. 開会
2. 諮問書の提出
3. 議題
 (1) 第3期中期計画の一部変更について
 (2) 令和6年度業務実績報告(上期)について
 (3) その他
4. 閉会

配付資料 資料1：中期目標・中期計画・年度計画の関係
資料2：地方独立行政法人加古川市民病院機構第3期中期計画の変更概要
資料3：地方独立行政法人加古川市民病院機構第3期中期計画(変更案)
資料4：2024年度上半期業務実績
参考資料1：中期計画の変更に係る関係法令

1. 開会	開会の宣言 〈委員長あいさつ〉
2. 諮問書の提出	事務局から委員長へ諮問書を提出。
3. 議題	<p data-bbox="405 405 922 439">(1) 第3期中期計画の一部変更について</p> <p data-bbox="389 450 1437 607">第3期中期計画の一部変更について、資料1に基づき、事務局より説明を行った。また、資料2・3に基づき、加古川市民病院機構より説明を行った。その後、評価委員会は審議を行い、第3期中期計画の変更について、「認可が適当である」と決定した。また、市長への答申書については委員長一任とすることを確認した。</p> <p data-bbox="405 656 485 689">(委員)</p> <p data-bbox="389 696 1422 808">当初の計画になかったとはいえ、建設改良は必要なものであり、昨今の材料費値上がり等を踏まえれば、後ろ倒しにして良いことは全くない。必要なことは適宜行っていくのがよい。資金面については無理のない範囲である。</p> <p data-bbox="405 864 485 898">(委員)</p> <p data-bbox="389 904 1401 972">市民病院になって8年が経ち、色々な医療機器について耐用年数が過ぎていくことは事実ではある。具体的に一番大きな投資は何を計画されているのか。</p> <p data-bbox="405 1028 485 1061">(機構)</p> <p data-bbox="421 1068 1347 1102">電子カルテの更新事業が一番大きく、消費税込で14億円強の予算になる。</p> <p data-bbox="405 1158 485 1191">(委員)</p> <p data-bbox="421 1198 1078 1232">電子カルテになったのは病院が新しくなってからか。</p> <p data-bbox="405 1288 485 1321">(機構)</p> <p data-bbox="421 1328 938 1361">統合の前から電子カルテを導入している。</p> <p data-bbox="405 1417 485 1451">(委員)</p> <p data-bbox="389 1458 1417 1525">診療所と比して中央市民病院の必要な投資費用は規模が大きく、また、機器等も新機種が多くでてきているので、そういった更新は重要なことである。</p> <p data-bbox="405 1581 485 1615">(委員)</p> <p data-bbox="389 1621 1417 1733">電子カルテや医療機器の更新などは、値上がりするなか非常に厳しい状況かと思う。医療機器などを順次更新するにあたって、各診療科・各部署が検討した結果の計画変更であると思う。</p> <p data-bbox="405 1816 1007 1850">(2) 令和6年度業務実績報告(上期)について</p> <p data-bbox="389 1861 1417 1928">令和6年度業務実績報告(上期)について、資料4に基づき、市民病院機構より説明を行った。</p> <p data-bbox="405 1984 485 2018">(委員)</p> <p data-bbox="389 2024 1417 2092">2021年度から2023年度まで右肩上がり、2024年度は落ち着いた感じはあるが、変わらず堅調である。</p>

	<p>(委員) 中間実績としては十分堅調である。特に年末年始はインフルエンザも流行り、インフルエンザが落ち着いてからは小児科の方では今までにないくらいコロナが増え、しかも感染源不明のことが多く対応が大変であった。そのような状況のなか、加古川中央市民病院では、救急車の受入れについて十分に実績を上げている。</p> <p>(委員) 前年度と比べてドクターカーは増えている一方で、ドクターヘリが減っている理由は何かあるのか。</p> <p>(機構) ドクターヘリについて、この圏域の基地局は県立加古川医療センターになっており、また市民病院の後送先の3次救急なので、概ねは県立加古川医療センターの方に運ばれる。小児科や産婦人科、循環器科といった診療科は、市民病院に搬送されるので、その症例の増減であり、その他の大きな要因はない。</p> <p>(委員) 概ね順調と理解した。小児医療においても、小児は急変することがあるので、救急車搬送数も含めて、非常によく対応している。専門医療職も各種医療行為を含め、それぞれ研鑽されていることがうかがえる。費用の最適化については、入院診療単価が非常に高い数値で推移し、また平均在院日数もより短縮しており、多くの部門間の連携がうかがえる。</p> <p>(委員) 全国的な傾向として、救急車の搬送の件数が減ってきている。</p>
	<p>(3) その他</p>
	<p>特になし。</p>
<p>4. 閉会</p>	<p><副委員長あいさつ></p>